

令和4年度長久手市地域福祉計画等策定推進委員会 会議録（要旨）

会議の名称	第3回長久手市地域福祉計画等策定推進委員会	
開催日時	令和5年3月22日（水） 午後2時から午後4時まで	
開催場所	長久手市保健センター3階 会議室	
出席委員 （敬称略）	平野 隆之 松宮 朝 岡元 洋子 横山 智絵子 近藤 鋭雄 水野 道子 水野 美々子 住田 敦子	浅井 通正 吉田 佳都子 加藤 圭子 竹田 晴幸 川上 雅也 宗 絵美子 寺西 弘治
欠席委員 （敬称略）	鬼頭 和宏	
市長 （敬称略）	<p>（長久手市）</p> <p>福祉部次長兼福祉課長 同主事 地域共生推進担当課長 地域共生推進課</p> <p>福祉部長 地域共生推進監 長寿課長 健康推進課長 地域共生推進課長</p> <p>（長久手市社会福祉協議会）</p> <p>事務局長 総務・地域福祉グループ地域福祉チーム</p> <p>近藤 都築 山田 福岡 川本 國信 水野 遠藤 嵯峨 見田 リーダー 興石 深谷</p>	

事務局 (敬称略)	1 あいさつ 2 議題 (1) 現行計画の評価について (2) 市民意識調査(アンケート)の結果について (3) 地域福祉計画等策定に向けた主な計画活動 (4) その他 3 連絡事項
議 題	第3回第長久手市地域福祉計画等策定推進委員会
配布資料	(1) 次第 (2) 地域福祉計画の評価について(資料1-1) (3) 地域福祉計画事業評価シート(資料1-2) (4) 第2次地域福祉計画の抜粋資料(資料1参考) (5) 第2次地域福祉活動計画の事業評価まとめ(資料1-3) (6) 市民意識調査の結果について(資料2) (7) 地域福祉計画等策定に向けた主な計画活動(資料3) (8) 庁内連携会議の取組(当日配布) (9) 地域福祉計画・地域福祉活動計画と一体的に定める計画について(当日配布) (10) 第2回まざって長久手フェス チラシ(当日配布)
公開・非公開 の別	公開
傍聴者人数	0名

議事内容

議事	
委員長	<p>いよいよ、この計画の前計画の評価、今日かなり多くの時間を取るかもしれない。いよいよ本格的に計画の中身に入るということで、ぜひ、忌憚のない意見をよろしくお願ひしたい。</p> <p>それでは早速、次第に沿って進めていきたい。</p> <p>最初に現行の計画の評価についてということ、かなり担当としては苦労されたのではないかと思うが、非常にすっきりとした整理がされているのではないかと思った。</p>
<p>(1) 現行計画の評価について (資料1-1、1-2、1-3、3に基づき、事務局から説明)</p>	
事務局	<p>概要説明。</p> <p>資料3の1ページ目を確認いただきたい。</p> <p>次の計画を策定するにあたって取り組んできた内容である。策定委員会、また意見交換会など実施しているが、それ以外のところでの取り組んでいることをまとめたものになる。</p> <p>例えば①の評価活動では、これから説明させていただく関係課等で現計画の事業についての評価についてまとめたもの、それに対する取り組み、それ以外にまた庁内連携会議ということ、打ち合わせをしている。</p> <p>2番目、②-1、これは市民意識調査になる。1回目、2回目に皆さんにご議論いただいた内容でアンケートを取らせていただいた。その結果についてご説明をさせていただきたいと思っている。</p> <p>また、②-2については、市民ワークショップについての取り組みの説明となっている。②-3、小地域の支え合いについては、地域住民との関係で実施しているものになる。</p> <p>3番目、業務量調査という形で委員会以外にいろんな意見として、皆さんの評価、また取り組み、今後どうしていくかということでご意見をいただく取り組みを進めている。</p>
委員長	<p>一番右端にある記号(S、P、T)について説明を。</p>
事務局	<p>第1回の委員会で委員長よりご説明いただいた資料を改めて資料として活用させていただいている。</p> <p>地域福祉については、ある活動主体Sがプログラム活動を実践すること、そして計画策定については、いかに活動主体とプログラム、活動Pを増やしていけるかがポイントというふうに考えている。また話し合いの場として、さまざまなことを話し合う場、テーブルがあることで、このSとP、活動主体やプログラムがさらに多様化し、より豊かな地域福祉が実現されるというふうに考えている。この策定委員会も主たる話し合いの場の一つとして捉えている。</p>
委員長	<p>皆さんもそういうつもりで今日お聞きいただきたい。</p>

事務局	<p>地域福祉計画の評価に関する資料としては、資料1-1、1-2、資料1-3の3つとなっている。</p> <p>資料1-3と書かれた資料をご覧いただきたい。この資料は、現行の地域福祉計画の計画書から、基本理念、目標、施策に関する部分を抜粋したものであり、計画の体系としては、基本理念を実現していくために、5つの基本目標と、基本目標ごとに細かく基本施策が定めてあるという形になっている。34ページ以降に基本施策ごとに地域で取り組むことや、市の関連事業が整理されている。</p> <p>資料1-2をご覧いただきたい。この資料は基本施策ごとに掲載されている市の関連事業について、実績、課題、次期計画へのつながりを各事業の所管課に振り返ってもらったものとなる。上段に数値的な実績、下段に地域の変化やエピソードを記載している。上段については、毎年計画の進捗管理のために調査をしているが、今回計画の評価にあたり、新たに下段に地域の変化やエピソードを記載する項目を設けている。これを踏まえて、資料1-1をご覧いただきたい。</p> <p>評価というと、実績としての数字があって、その達成度として、A、B、Cや二重丸、丸、三角などをつけるイメージだが、前提として、現行計画では数値的な目標は計画に定めていない点、個別の事業の数値的な結果が必ずしも地域福祉の進捗ではないとの考えから、地域の目指す姿が記載されている基本目標ごとに、各事業を進める過程でキャッチできた地域の変化やエピソードをまとめたものを作成させていただいた。</p> <p>次の議題2で報告する市民意識調査の結果も踏まえ、皆様から見たここ5年間の地域の変化もお聞きできればと考えている。</p>
委員長	引き続き、社協より説明をお願いしたい。
事務局 (社協)	<p>資料1-3をご覧いただきたい。第2次地域福祉活動計画の事業評価まとめとして、市役所の地域福祉計画の評価と同じで、令和元年度からこの計画を推進している。令和2年、3年度、皆様ご存知の通りコロナ禍の影響により、事業を大幅に見直すことが必要になったことから、今回、コロナ禍だからこそ高まったニーズや住民参加の部分がある事業を少し重点的にお伝えしたい。</p> <p>地域福祉事業①のフードドライブ事業では、令和2年から生活に困った方、1人親世帯、1人暮らしの学生さんを対象に、食料支援をさせていただいた。コロナ禍でアルバイト収入が伸びない、学校にも行けないということで、生活に困った人が家にいるということが分かり、社会福祉協議会として何かできないかどうかがということで、食料支援をさせていただいた。</p> <p>学生からの「ありがとうメッセージ」を読んだ市民の方々が、自分達も何かお手伝いすることができないかという自発的な行動から、西の共生ステーションで食品を集めて配布させていただいた。その後、南や市が洞でも食料支援をさせていただき、フードドライブで集まった食品を届けた</p>

	<p>り、学用品を集めている部署と協働して、先日は井堀の県営住宅で配布させていただいた。</p> <p>食品を集めることを起点に、社協内や社協の関わるボランティアとも協働して事業展開することができる。また、地域の高校や事業所の参加を後押しするような活動を実施することができる。</p> <p>この活動について、小学1年生の生徒さんが、県社協が実施している福祉体験作文コンクールに応募し、入選したとの連絡もいただいている。市民の誰にも分かりやすく、参加しやすい事業ということで、今後も広げていければと考えている。</p> <p>アウトリーチとの継続的支援事業については、西の共生ステーションをはじめとしたさまざまな場所でコミュニティーソーシャルワーカーが何でも相談会を開催しているが、来れない人が一番大変なのではないか、特に今よく言われるような8050世帯の実情が分からないということもあり、今年度市役所と協力して調査を実施。今年の2月に西、東、市が洞の3地区で実施し、南、北は4月以降に実施させていただこうと思っている。</p> <p>今後の支援策については、大変難しいと感じているが、N-ジョイや居場所づくりを支援している中で、社会に参加する機会を失った世代に対する支援というのは大変重要であると考えていることから、まず親御さんとのつながりを作っていくことが重要ではないのかと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>今回は量的な評価というよりは、エピソードも含めるなど工夫された感じもある。また、具体的な内容についても触れていただいたことから、委員の中でも関係する方もおられたのではと思う。評価という視点もなかなか難しいかもしれないが、取り組まれたものでこの点は良かったのではということ、それぞれの方からご発言いただこうと思う。</p> <p>西共生ステーションの話をもう少し詳しくお聞かせいただきたい。</p>
<p>事務局 (社協)</p>	<p>西共生ステーションではコミュニティーソーシャルワーカーが常駐。学生の「ありがとうメッセージ」を共生ステーションに掲載したところ、それを見た地区社協の方が、ぜひこれをやってみようということになり、共生ステーションの方にもご協力いただいた。</p> <p>社協が各共生ステーションでフードドライブ、パントリーの食品配布をやったことがあり、こういうふうを集めて、こういうふうに配っている。じゃあ南や市が洞でもやってみるかという形で、市民の声が共生ステーションに届き、置かせていただくことができた。</p>
<p>委員長</p>	<p>基本目標2の中でも共生ステーションとまち協の連携の話が少し出ていたが、長久手独特の一つの事業ではないかと思う。</p> <p>事務局から一言いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>地域の方が地域のことをどれくらい知っているかというのが、はじめは不安であった。</p> <p>西の地区については、もともと住んでいる人と新たに区画整理で入ってきた人が、学校の中や親同士のお付き合いというのもあり、新旧がうまく</p>

	<p>混ざっている。そのような土台があるからうまくいったと思っている。</p> <p>しかし、地域の課題を地域でというところまではまだまだ。何が課題なのかというのは、家庭の課題だったり地域の課題だったり線引きできず、やることが沢山あると思う。今は皆が集まる拠点ができたことにより、街が少しずつ動き出してきた状況であると認識しており、これから発展の余地はたくさんあると思っている。</p>
委員長	<p>基本目標5を見ていただくと、「たつせがある」ということで、学生あるいは大学生というキーワードが出てきている。先ほども大学生の「ありがとうメッセージ」の話もあった。その後アンケート調査にも出てくるが、自由記述に学生が回答している文章も結構ある。</p> <p>長久手と大学が何とか今後の地域福祉計画の中にも絡めていくことができると希望もある。</p> <p>先ほど学生のコロナ禍の状況も大変であったという話もあったが、何か大学との絡みで少しご意見いただこうと思う。</p>
委員	<p>大学に限らなくてもよろしいか。</p> <p>先ほどの食品や日用品の配布を県営住宅で実施した件だが、大体50個分の準備をして臨んだのが、90人以上の方が見えたということで、大成功だったという話を聞いている。</p> <p>それともう1点。コロナ禍で活動がなく、生活支援サポーターの方と連携してという話がよく出てくるが、生活支援サポーターの活動と民生委員の活動がかなり似ているところがある。民生委員の方にもこんな活動という声をかけていただけると嬉しい。</p>
委員長	<p>副委員長が大学で気づかれた点、この後のアンケートのことについて、すこし意見をいただきたい。</p>
副委員長	<p>学生に対して本当に支援いただいた。フードパントリーだけではなく、コロナ禍でオンラインになったことに対応するパソコンの支援を、豊田中央研究所から受けたのがちょうど2020年。大変貴重な支援であった。今度は貢献する番だと思っている。</p> <p>ほぼ全ての大学で地域の活動ができるような状況になっており、今年の夏ぐらいから再開し、さらにもう少し発展させるような形で進めたいと思っている。</p> <p>少しずつ参加している学生が多くなってきているが、市民と同様の課題があり、かなり意識の高い同じ学生がずっと色々な活動に参加している。</p> <p>せっかく4大学の連携の仕組みができたので、再開にあたっては1年生ができるだけ早い時期から裾野を広げるような形をとりたい。また、自由意見で（地域活動への参加が）ハードルが高いやワークショップに参加しているのかという意見もあり、正直それが実態だと思う。この点が今後の課題であると思う。</p>
委員長	<p>今後とも食べ物を軸とした地域展開と、学生がコロナ禍を経て地域活動が再開できることを地域福祉計画の中でどのように扱っていくかは、結構大きな課題ではないかと思っている。</p>

	<p>地域共生推進課より何か感じていることがあれば一言いただきたい。</p>
事務局	<p>これまでの議論を聞いていて2点ほど思うところがある。</p> <p>1つ目はフードパントリーの話だが、じわじわ地域の中に広がっていく過程がある中で、ポイントは学生の声を地域共生ステーションの中で地域の方が見えるように掲示したこと。あとは、県社協の作文コンクールで入賞したエピソードが地域の皆さんの心を打ったのではと思う。</p> <p>地域共生推進課の役割について、変化が起きたことへのフィードバックを地域にどう示していけるのかという点、大きなお金を使ってやることよりもすごく大事なことはないかと思っている。それぞれ日頃の生活環境においては出会わないかもしれない人達の間をどう届けていけるかを常に意識する必要がある。</p> <p>また、今回資料として配らせていただいた今週末実施される「まざって長久手フェスタ」のポスターデザインは県芸大の学生に描いていただいた。地域でワークショップを実施するから学生の声を届けてというのは、こちらの都合であり、学生の学びを活かせるような企画や、こちらが大学にアウトリーチをして、市職員や社協ってそういう人達なんだというように分かってもらった上で、じゃあ参加してくれないかという方が、少し近い関係性になれるのではないかと思っている。</p>
委員	<p>フードドライブの始まった経緯について話をさせていただきたい。</p> <p>C S Wが掲示板を1つ作って出したことがスタートだったと思う。こういうことやってますというのを、ステーションに入ってなくても通りすがりのJ Aに来る人にも見えるようにした。</p> <p>そうしたら、配ってるんじゃないかと、あげる方もできるのかと質問がきた。それをステーションの受付スタッフが声を拾ってC S Wに伝える。ステーションの中の受付スタッフとC S Wの協力関係ができてからこそできた。</p> <p>たつせがある課に「これをやっていいですか」と伺いをたてたら、それが受付の人の仕事なのかみたいな話が起きてきたかもしれない。しかし現場ではそういう人がいます、欲しい人がいます、ここで成り立つんだったらやればいいのか、という感じで始め、それが他のステーションにも広がった。</p>
委員長	<p>それも1つのエピソード。現場の判断を邪魔するなど。長久手らしいというか、そういうエピソードが計画書の中に盛り込まれているのをイメージするのも1つではとも思う。</p> <p>評価には何ページかにわたって、今のようなエピソードを計画の中に入れるという方針でいきたい。アンケートも当然載せないといけませんが、ちょっと工夫しましょう。計画の課題においてもやり方のプロセスに学生が参加、あるいは学生の認識というか。ワークショップのハードルが高いという文章が私もすごく気になったが、先ほど委員よりお話ししていたように、ハードルを下げる、計画にも工夫が必要ではと思った。</p> <p>他の委員の意見もお聞きしたい。</p>

委員	<p>フードパントリーにはあまり協力はしていないが、移動支援に関して協力させていただいている。</p> <p>先日、長久手ニュータウンにおいて、移動支援に関するイベントを開催した。お試し乗車と餅つき、ぜんざいの提供ということで、高齢者だけではなく地域のファミリーの方に注目していただきたいという思い。</p> <p>その中で気がついたのは、どうやって移動支援のことを広めていったらいいのか。そして、ボランティアの協力をもっともっと増やしていかなければいけない。どうすればこれ以上増やしていけるのかという課題を解決せずに進めている状況なので、皆さんにお知恵を拝借したいと思う。</p>
委員長	<p>格差というか活動の差というか。移動手段については、自由記述でかなり書いておられた。計画の中でも先ほどの西のように新旧が融合したというお話もあったことから、そういう事柄についても地域福祉計画の中で長久手の1つの課題として抽出し、それぞれの課題に対応することを記載していければいいのではと思っている。</p> <p>移動のことについては、事務局より話があった。</p>
事務局	<p>そういう事を今取り組んでいただいております、地域の力はすごいというのを行政としてもすごく感じている。</p> <p>また後から説明をさせていただく。</p>
委員長	<p>計画に評価を踏まえて何を生かすかという議論は、引き続きおこないたいと思う。</p> <p>アンケートについて事務局説明をお願いしたい。</p>
<p>(2) 市民意識調査(アンケート)の結果について (資料2に基づき、事務局から説明)</p>	
事務局	<p>市民意識調査の実施結果について説明。</p> <p>令和4年11月16日に調査書類を発送。令和4年12月5日で回答を締め切り。対象者5,600件中1,993件の回答があり、回答率としては35.6%となっている。</p> <p>市民意識調査結果のポイントと書かれた資料を1枚めくると、調査結果報告書がついているが、調査結果報告書はかなりボリュームがあることから、中身を事前にご確認いただけなかった委員については、表紙についている市民意識調査の結果のポイントで大まかに傾向を把握していただきたい。</p>
委員長	<p>読んでいて自由記述もだが、それぞれ傾向もかなりクリアに出ているところもあった。</p> <p>64ページの自由記述に子育てとか教育のことがあり、子育て中の方は結構厳しいとつくづく思った。他と比べて子育て支援が遅れていると感じるという意見もある。まだまだこの世代が増えていく可能性もあるので、少し気になった。</p> <p>もう一点は67ページの自治会についての加入。自由記述は少ないが、なかなか厳しい状況だということも感じた。</p> <p>他にも色々感じるころはあるが、自由に発言していただきたい。</p>



委員	<p>午前中に会議があり、卒業式に参加できない児童・生徒がいることについて、お祝いの場所に来れなかった児童・生徒の思い、学校の教育はどこが課題なのかをもう1回掘り下げましょうと。今後の校長会や教育委員会で、休んでいる方の理由についてどう考え、どう対応しなければいけないのか。私達はアンテナを張っていかなければならないと思った。</p> <p>教育が遅れていると言われても、比較するものではないと思う。先生方も頑張っていることを見ているので、丁寧に取り組んでいかなければいけない思っている。</p>
委員長	<p>行政にとって、ここが他と比べると遅れているというアンケートに、1人、2人というオーダーかもしれないが、どんな感じで受け止めるのか。</p>
事務局	<p>子育て支援というよりは、まちの構造の問題もあると思う。</p> <p>三ヶ峯は戸建て住宅なので、人の回転がない。西の方で区画整理を当初にやったところは、相当な数の賃貸物件が多い。いつまでも若い人達が入れ替わる。</p> <p>今、長久手の子どもは年間600人ぐらい生まれるが、賃貸に住んでいる方が多い。そうするといつまでたっても子どもが増え続ける。なかなか天井が見えないところがあり、北小学校、北中学校は割とマンションが多い。どこかで頭が打つと思うが、そうでもない地域もある。</p> <p>昭和40年50年代に作った東保育園を立て替える際に、民間に任せようという話があるくらいで、人の循環というか巡りが良くて、安定供給、需要と供給のバランスが崩れたまま人口が上がっている状況。制度が良いか悪いかというよりは、平均年齢が若い恵まれた街だが、なかなかそういうところが現状追いついていない。</p> <p>高齢者も増える、子どもも増えるというちょっと珍しい街。外から見ると裕福な市ではあるが、保育園も建てられない、子どもの支援に回らないという現状がなかなか打開できない課題ではあると思っている。</p>
委員長	<p>地域福祉計画の中で、子どもの支援の課題についてどういうふうに捉えていくかも含め、国も子育てを重視しようという方向に舵を切っているが、全体的に子どもと地域福祉の関係というのは、今まで地域福祉研究の中でもあまりきちんと議論してこなかったと思う。</p> <p>少し意見交換できればと思う。</p> <p>社会福祉協議会にとって子育て支援関連は今後強くできそうか。それともちょっと違うという感じか。</p>
事務局 (社協)	<p>今まで子育て分野は、社会福祉協議会としては弱かった分野ではある。ただ、先ほども少しお話しさせていただいたが、コロナ禍のこの数年、ひとり親世帯に就学援助だけでは足りないところもあり、支援させていただいた。これから子育て世帯、ひとり親世帯、生活に困りがちな世帯に対して早く相談機関とつながっていただけるような形を取っていき子育て支援も力を入れていきたい。</p>
委員長	<p>委員の方々にどうか、子どもと地域福祉の関係で何かご発言を。</p>

委員	<p>東小学校については新しい新興住宅地が3つできつつあり、小学生、保育園児、中学生がどんどん増えている。また、2キロ圏の通学路が当たり前になっている。通学問題に関しても目を向けてほしい。</p> <p>今後生まれてくる子ども達も当然のように歩かされる。長久手市内で2キロ歩いてくる学校が他にあるかと問いたい。中学生はもちろん自転車通学しなければいけない。先ほど事務局の言うように戸建てが多いので一時的ではあるかもしれないが、学校問題も取り上げていただきたい。我が家は通学路になっているが、最初の列が歩き始めて最後の列が終わるまでに10分程度かかる。私達は行列と言っている。歩行者優先、児童優先ということで見守っているが、その間は車の出入りはできない。この課題はどうしたら解決できるか。7割、8割が三ヶ峯から来ているので、もう少し見直していただきたい思いがある。</p>
委員長	<p>64ページの下から3つ目にも。東小学校校区の話。 地域共生推進課から何か。この子どもと地域福祉の関係で。</p>
事務局	<p>地域福祉計画にまつわることも含め、課で活動する中で感じることは、子どもに焦点を当てた活動をする、大人、高齢者がくっついてくる。これは長久手の特徴ではないか。</p> <p>例えば、高齢者向け、障がい者向けなどテーマを打って何かする時に、どうしても関係する属性の方々だけが集まるという傾向がある。しかし、子ども達の未来のためというのは、色々な方の共通目標になるというのを、この1年間の活動で再確認した。</p> <p>この後資料3で説明するが、地域で子どもを育てるというテーマで市民ワークショップを実施して、さまざまな関係者が、自分達で何ができるかという観点で集まった。また、子ども達がものすごく力を持っている。主体的に自分達が長久手の自治のために何ができるかを自発的に討議して自然と広がることは、子ども達の持っている力であり、長久手はふるさとだと思っている表れではないかと感じている。</p> <p>アンケート中で気になる傾向として、30ページだが、コロナの影響もあるのではと推察するが、生活の中でそれぞれが困りごとを抱えたときに、助けを身近な人に求めることができるかという問い。前回の調査と比較すると、「助けてということについて申し訳なく思ってしまった、求めることができない」、長久手ではこの傾向がそもそも強いと思っていたが、さらに強まっている。</p> <p>さらに言えば、3ページに日頃の生活課題、困りごとを抱えている方が増えており、不安感がまん延している。コロナの影響かもしれないが、助けを求められないことをセットにすると、豊かな長久手と言われるが、内情を見ると市民の心の中、家庭の中でため込んでいるものがたくさんあるのではと、このアンケートをみて想像していたところ。</p>
事務局	<p>ぜひこの30ページの比較表は計画の中に取り入れて、どう対応していくかを少し考えていく。重要な調査結果として位置づけることとする。</p>

(3) 地域福祉計画等策定に向けた主な計画活動  
(資料3に基づき、事務局から説明)

事務局

資料3を使って説明。

冒頭に今年度行った計画活動を、大きく3つの軸として説明済。今からは、それぞれの活動の狙いと内容について説明させていただく。

評価活動の狙いとして、支援現場や地域のニーズに応じた事業の組み替え、体制整備の合意形成に関するプロセスを明らかにしたい。

市民意識調査や市民ワークショップの展開は、長久手市において共通の関心事、今年度は子育てをテーマに実施しているが、子育て団体や個人が出会う場、プラットフォームを作る場のプロセスを明らかにしたい。

小地域の支え合いということで、移動支援の方を展開。こちら市民が身近な地域で生じている困りごとを知ることによって生じる意識の変化を明らかにし、市民同士の関わり合いによって具体的な解決策を探り当てていくプロセスを明らかにしたい。

最後に業務量調査。資料を添付しているが、地域共生推進課と社協のCSWで実施している。実際の業務内容とそれらのボリューム感について、現在1ヶ月半ほど調査を実施している。

地域共生推進課は令和3年度に新設された課になるが、地域共生社会の実現に向けて、どういった役割を担っているか。見える化をはかっていると考えている。現在、調査は集約して分析をしている最中。次回の委員会等で資料を提出していきたい。

2ページをご覧いただきたい。

前回の委員会でこちらの図を出させていただいている。1ページの活動内容の方が、どう取り扱われているか分かるように追記を行ったものになる。評価活動については、庁内連携会議、策定推進委員会やその他の場所で協議するよう取り組んでいきたい。

3ページについては、先ほど説明済。

4ページをご覧いただきたい。

今年度は市全体でテーマ型ワークショップということで「できることもちよりワークショップ」を実施。また、小地域での支え合いの取り組みとして移動支援やハイハイレース等を地域で展開。

これらの取り組みについて、3ページで言う「地域主体のプログラムを増やすための協議の場を増やす」という意識で実施している。また、小地域での支え合いの取り組みについては、地域における活動の主体「S」になる。

「できもちワークショップ」の目的は、困りごとを抱える人に対して、各自ができることを持ち寄る。そういった気持ちを醸成し、人と人が緩やかにつながる文化を育むことを目的としている。

ワークの実施にあたり、参加者やネットワークの広がりを期待していることから、準備の過程からNPO法人と共同で実施している。6ページに準備から開催までの経緯を記載。半年間、準備に期間を重ね、色々な経緯

	<p>を踏まえ実施。準備においては、ワーキングチームを結成。メンバーは、NPOや市民団体に活動する方に声をかけ編成。ワークショップを運営する仲間として、行政と一緒に準備を行った。途中段階において、それぞれ立場や価値観の違いにより話がかみ合わないことや涙すること多々あったが、時間をかけて対話を行い、参加しやすい雰囲気づくりを目指し、当日を迎えることができた。委員はワーキングチームに参加いただいた。</p> <p>8ページをご覧ください。</p> <p>子育てをテーマに困りごとを抱える事例を用い「参加者自体ができることを持ち寄る」ワークを実施。45人の参加者があり、非常に長時間のワークであったが、白熱した意見が交わされた。当日は2名の委員にも参加いただいた。</p> <p>9ページをご覧ください。</p> <p>振り返り会を実施し、当日の感想やその後の気持ちの変化などの共有を行った。また、実際に活動としてやってみようという参加者もあり、引き続き「できもち」は実践していくエンパワーメントとなり、我々としても自信がついた。</p> <p>10ページをご覧ください。</p> <p>ワークショップを通じ、準備段階から市と市民が関わり、話し合いを重ねる過程において、参加者同士が立ち位置や考え方の違いを認識する良い機会となった。テーマは子育てであったが、活動の分野を超えて参加者に声をかけたことで、垣根を超えたつながりをつくるきっかけとなり、参加者の属性を問わず課題に向き合う気持ち、態度を共有する場となったと思う。また、振り返り会では、市民の前向きな取り組みを応援し合える場として、ポンと背中を押すきっかけの場になったと思っている。今後もこれで終わりではなく、日常的な関わりも通じ、取り組みや変化に寄り添うスキームをつくっていきたい。</p> <p>また、準備の段階から市民に参画してもらい取り組みを引き続き繰り返すことで、市民の方が主体的に参画する地域の輪を広げていきたいと考えている。</p> <p>小地域の支え合いとして行っている移動支援については、社会福祉協議会より説明をさせていただく。</p>
<p>事務局 (社協)</p>	<p>11ページをご覧ください。</p> <p>移動支援事業の住民検討の取り組みについては、先ほど水野(道)委員より話があったが、令和2年度末から、長久手ニュータウン地域、市の南東部において地域の支援を行っている。長久手ニュータウンは、50年ほど前に整備された住宅地で、スーパーも医療機関もないという現状が前々から課題としては上がっていた地域である。</p> <p>そもそも住民から「N-バスは知っているけれども、本数が少なく不便だ」、「買い物をするに当たって免許返納したらどうするのか」といった声が挙がっていた。民生委員より困っている状況を何とかしたいという声が挙がった上がった際、社会協議会のCSWやボランティアのドライバー</p>

	<p>が一緒になり「何かこの地域の方でできないか」と令和3年度に1年かけて検討し、今年度4月より移動支援「お出かけあなたの車、三ヶ峯ニュータウン号」として取り組みがスタート。それ以外にも、先ほど水野（道）委員より話があったが、取り組みをきっかけに、ボランティアとの交流会を開催し、社会福祉協議会と住民等がコーディネートした形で、現在試行段階であるが、住民の移動支援の形を一緒になって検討・模索している。</p> <p>月に1回、9名程度が利用されている。実際に利用された方の声をいただいているが、「車中で他の利用者や運転ボランティアとのふれあい生まれ、それが楽しい」、「今までよりも家に早く帰れるようになった」との意見が挙がっている。</p>
事務局	<p>引き続き、小学校地域で行ったワークショップについて。</p> <p>ワークショップとして「ハイハイレース」を実施。孤立しがちな子育て世代が近所の人と知り合う機会を作ると同時に、身近に相談場所があるということを知ってもらいたいという思いで始めた。また、子育て世代が抱える悩みやニーズなどを把握し、地域の中で子育てをおこなう意識の醸成、具体的な支援活動の促進を図ることを目的に実施した。</p> <p>16ページをご覧ください。</p> <p>すぐに定員が埋まる盛況なイベントとなった。社会との関わりが非常に薄いということを感じており、このような場を求めているという声が多かったと聞いている。</p> <p>17ページをご覧ください。</p> <p>「ハイハイレース」後に育児をテーマに座談会も実施。共通の悩みを抱えているということに安心したり、アドバイスがもらえたりと、子育てに不安感、孤独感がなくなったという意見も聞くことができた。</p> <p>18ページをご覧ください。</p> <p>「ハイハイレース」を通して、同じ年代の子どもを持つ近所でもつながっていない。また、コロナ禍で孤独感を感じている方が非常に多いことが分かった。育児の悩みの直接の解決にはならないかもしれないが、同じ境遇のパパ・ママと共感することで孤独感が軽減され、前向きに育児に取り組めるきっかけとなったようである。</p> <p>また、児童館や共生ステーション等、フラットに行ける場所の情報が行き渡っておらず、普段行かない場所にきっかけがないと出かけづらい心理的ハードルがあることが分かった。さらに、孤立しがちな乳幼児時期に、看護師や栄養士、専門職、民生委員、学生、地域の方々等、子育てに関わる第三者と出会う機会があることで、「地域で子育てをしている」一体感が持ちやすくなることが分かった。今後もフラットに当事者の声を聞ける場を作るとともに、いかに多くの人と共有して取り組みに生かしていけるかを考えていきたい。</p> <p>また、今年度のまとめとして、3月25日にイオンモール長久手のイオンホールにて、「第2回まざって長久手フェスタ」を実施させていただく。</p> <p>テーマは、「おじいちゃん・おばあちゃん家」。おじいちゃん・おばあちゃん</p>

	<p>やん家で遊べるような感覚のイベントとしたい。ぜひ参加いただきたい。</p> <p>続いて、庁内連携会議について説明させていただく。当日資料をご覧ください。</p> <p>庁内連携会議は、第2次の地域福祉計画に記載してある多様な地域課題に対して、各課が連携し創意工夫ある取り組みを検討する場として、令和3年11月から実施している。</p> <p>内容は様々なテーマを議題とし、「相談支援グループ」と「暮らし・防災・まちづくりグループ」2つに分けている。時には合同で実施することもあるが、現在までに7回開催し、これまでの庁内連携会議の開催内容を当日資料2ページ目、下の部分に掲載している。</p> <p>基本的にグループワークを通じて、連携に向けた課題やアイデア出しの検討を行っている。また、3月20日に第7回の庁内連携会議をおこない、裏面3ページに詳細を紹介してある。</p> <p>第7回の庁内連携会議では、庁内の関係課職員以外に、市内の相談支援機関に従事する事業者に入っただき実施。内容は、半田市の障害者相談支援センター長を招き、講演とグループワークを実施。庁内でも互いの仕事を知らないことから、まず互いの仕事をまず理解する。そして、市役所・相談支援機関と異なる立場の方々と知恵を出し合い市全体で捉えることで、見えてくることを体感していただくこと大きな狙いである。</p> <p>障害者相談支援センター長は、多問題世帯を支えていくにあたり、気にかける地域の今風な再構築が重要であると強く訴えられており、専門職と地域住民のちょっとした見守りの両輪に走支援し、フィードバックされる体制ができるか等、分かりやすく話していただいた。</p> <p>4ページをご覧ください。</p> <p>今回は福祉部門だけでなく、財政や企画の部署からも参加いただき、「市全体でつながりの共通認識を持ちたい」という声をいただいた。また、「行政サービスだけではなくて、地域における頼りになる人に出会う仕組みについて話し合いたい」、「役割分担ではなく、チーム全体で関わり続けることが大切」といった声もいただいた。</p> <p>引き続き、庁内外の共同を目指すための取り組みを継続していきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>計画策定に基づき、計画活動の2ページにあるような様々なところで次期計画に生かせそうな活動を拾っていくための取り組みがなされていると理解していただきたい。</p> <p>ワーキングチームで喧嘩したという話もあったがいかがか。</p>
<p>委員</p>	<p>それぞれ思いがあることから、言い合える場があったこと自体、すごく良かったと思う。</p> <p>かなり綿密にメンバーを集め、招待するメンバーについてもかなり検討し、計画的に行われた会であった。参加して一番思ったのは、ワークショップや色々な会議で、どういうことがあればいいかとなると、それを実施する主体は誰（どこ）なのかが分からず、理想としてこういうことがあればいいで終わることが多い。しかし、このワークショップはこの課題に対</p>

	<p>して私は何ができるという、主体を増やす、主体を考えることができた。課題がある家族に対して全体にとっても問題はあがあるが、この部分の1つ、例えば送り迎えならば1日だけなら私できるといったな、これらを集めるとその子が何かに通うことが成り立つのではないか。普段も「誰かこれやって」ではなく、それに対して「自分ができることは何か」という考え方ができる人を増やしていくという意味のあるワークショップだったと感じた。</p> <p>ただ、実施するまでにかかなり綿密に準備したが、これを地域の中で誰かが準備してできるのか、地域の中に落とし込んでどう実施するのか、すごく難しいのではと後で感じた。</p> <p>では、個人として何をすればいいかと考えた時に、目の前にある一番の課題が、自治会の崩壊。アンケートの中で助けてと言える人がいないが、これは大切なことだと思っている人は半数いる結果が出ている。高齢になり組長ができないから、自治会を辞める話がものすごくある。皆を支えてきて、支えられる立場になったら自治会を抜けることはとても問題。例えば、役員を免除するという規則を作ることや、勧誘を積極的に行っている自治会があること等を紹介するなど、できる範囲で目の前にある課題、自分の時間の中でできることは何かということを考えるきっかけになった。</p>
委員長	<p>確認だが、計画をするにあたり、主体を作る。委員がおっしゃっていた、これを地域にどう落とし込むかという課題がある場合、地域福祉計画の中にできまちワークショップ事業を立ち上げ、そこに自治会を活性化させるぞ、ワークショップのようなことを何年間に何本実施するぞというのを、地域共生推進課はかなり想定できるという感じか。</p>
事務局	<p>今回、子育てをテーマにできることを持ち寄っていただくと同時に、「こういったことが地域でやれるよね」、というプログラムが増えていくイメージ化を、私達はできたと思っている。</p>
委員長	<p>先ほど職員負担の話がされたが、今後もできまちワークショップ型という形で実施する場合、委員も言っていたが、これがワークショップなのか、ハードルが高くなっていくのではないか。しかし、実際に事業を起こそうという意味で、一種のプロジェクトのような話ではないかと思う。</p> <p>すぐには行政の予算化ができない領域において、こういうものを導入していく戦略もあるという理解でいいか。</p>
事務局	<p>できれば主体は地域の方にやっていただきたい。例えば、地域で学童をやりたいとか、そういう思いのある方の背中を、プログラムで背中を押す。そういった戦略を持っている。</p>
委員長	<p>委員も当日参加いただいたと聞いているが、感想はあるか。</p>
委員	<p>蟹原と根の神地区だけの子どもを対象に、集会場を利用して見守り活動、位置付けとして社協から助成金をいただいているサロンという形で活動費を賄っている。全員ボランティアで、週に2日。子ども達にとっても、お母さん達もとてもいい場所だという評価をしていただいている。</p> <p>これからそういう場が広がっていき、まさしくこの地域の人達と学生も</p>

	<p>交えて、共同で子どもの安心・安全を見守るような場がでるといい。ちょっと紹介させていただいた。</p>
委員長	<p>ハイハイレースなど色々工夫があり、共生ステーションが拠点になっている感じがする。</p> <p>副委員長にコメントいただきたい。計画がなければ、こういうことまでやってみようという動きにも、形骸化してなりにくいのではと思う。</p> <p>実際ワークショップで集まった人は、先ほど委員が懸念されていたが、果たして地域に根差していくかについて、何か感想はあるか。</p>
副委員長	<p>実態としてアンケートの話もあったように、近所というのがかなり難しくなっているのであれば、共生ステーションで委員が話されたフードパントリーのような活動を、小学校くらいの範囲で実際活動として何ができるかという具体的な一歩になる話をするのはとてもいいと思う。</p> <p>また、アイデアを出すというワークショップではなく、実際事業をやる場所までいける、あるいは短期的なちょっとした活動が進められるところにいけることを、この計画で出していけるといいのかと。</p> <p>日曜日にリモテラスでワークショップを実施したが、6月以降で何かやりましょうという具体的な話ができただけ。すぐにでも進めていける、本当に小さな範囲かもしれないが、主体が増えていくという意味でも、様々な地域福祉活動の面と立体的につながっていける一歩になるのではと非常に感じた。</p>
委員長	<p>所管されている地域共生推進課の立場で何か。コスト的にかなり職員の時間をかけているということで、それなりに成果を生まないといけないという感じもしないではないが。</p> <p>管理者の立場として、どこまで汗流したかというのを聞いてみたい。</p>
事務局	<p>ほとんど事前の準備は、職員が汗をかいており、当日の盛り上げ役ぐらいしかできていなかったかもしれない。</p> <p>できもちワークショップ、ハイハイレースの当日や、移動支援の議論をしているその場で、何か大きな成果が出ることをあまり狙わない方がいい。意図した場に来て、はい、ドンというのは、どちらにとってもあまり楽しくないと思っている。フラットな気持ち、その場で何が出てくるかは蓋を開いてのお楽しみというのと、そこで具体的なものが動かなくてもよいと思っている。その人達同士がお互いを知っている状態だと、その後の関係、続く関係性になると思っている。</p> <p>具体的なエピソードで、できもちワークショップに参加された方から、後日、「あの人は多分この補助金が必要だと思うから連絡しておいてほしい」と、補助金の情報提供をくれた方がいた。これは自分の活動だけでなく、出会ったその人の活動まで関心を持つようになったということで、ワークショップで出会ったことの成果だと思っている。そういう意味でワークショップの中で何か具体的なプロジェクトが出なくても、その後その人達が連絡を取り合ったり、あの人こんなことやってたよなという思い当たる関係性が作れるかどうか。その場作りが非常に重要だと思っている。</p>



	<p>また、このできもちワークショップの振り返りの中で、大学生から個人に係るカミングアウトがあった。この人達には言ってもいいんだと思ってもらえたことが嬉しかった。やってよかった、こういう場を作れたのが本当によかったと思った。</p> <p>この場作りは、地域の方というよりも、中間支援を担う組織か行政がやるべきことだろうという整理をした。</p>
委員長	<p>そういう意味では、私が問題提起したプロジェクト化、事業化すること以外に、関係づくりをするといったアウトプットの出し方もあるということ。その辺の見極めは地域共生推進の持ち味だと思う。</p> <p>一方で、先ほど委員が言われたように、具体的に課題解決につながる事業化の路線と、関係を密にして広い意味での活動の助けを求める、個別支援とは別に活動自体を助け合える関係をその中に作るという、2通りの出口があることも含め、地域共生計画の中にできまちワークショップという固有名詞がうまく活かされるかどうかはあるが、長久手方式のようなワークショップの方法を作るしかないという感じがする。</p> <p>色々な立場で参加していただいている皆さんの考えを聞かせていただきたい。障がい分野から委員が来ていただいているが、ボトムアップ型の話について、委員の立場からみると少し違うかと思うが。その後に委員にも発言いただければと思う。</p>
委員	<p>今回のこの委員会もそうだが、様々な活動をしていることを初めて知ることもある。そういうことをどうPRしていくのかと感じた。</p> <p>資料2の70ページに、障がい者の生活介護施設やグループホーム等の充実化について、現状すでに定員等で市外の事業所を探すことになり、住み慣れたところにいられないという記述がある。10年前に一切なくそうと思って取り組んできたが、結局出ているというのを改めて感じた。事業所はかなり増えたと思うが、それでも足りないことについては、何とかするのでぜひ教えてほしい。このような現状でかなりたくさんの方が市外で過ごしている。泣く泣く親御さんが送り出している。これは絶対なくしたいと思っている。障がい、病気、認知症、要介護の状態になると、どうしても言い方に語弊があるが、人の頭数から除外されてしまうところがある。今まで当たり前につき合っていたり、お知らせが来ていたのに、急に来なくなってしまう。多分無意識に行われていることだと思うが。</p> <p>余談になるが、昨日瀬戸市でNPO法人が企画されて、狛江市の副市長さんが、主権者教育アドバイザー、総務省の立場をいただいているそうだが、その方を呼んで障がい者の方の投票支援について話をしていただいた。</p> <p>狛江市では障がい者の方が投票行動できるよう、代理投票の制度や、事前に投票ができる。それを聞き、普段まちで行われているような活動とか権利について、参加しやすいようにしていく活動や事前教育について、もう少し地域福祉で取り組む必要があるのではと思っている。</p>

委員	<p>普段はケアマネージャーをしており、高齢者介護の分野で仕事をしている。幅広く地域福祉、地域の中に子どもについても色々な分野、立場の方が活動していることは、本当に俯瞰してなかなか普段は見れていない。委員も言っていたが、知らないことがたくさんあり、担当している方が住んでいる地域の中に何があるかについても、情報として自分が積極的に集めに行かないと分からないことがある。情報が支援する人の所にも届く仕組みがあると、結びつけやすくなるのではと感じた。</p> <p>また、行政の中でも色々な取り組みをされていることを一覧を見て分かり、重なる部分がたくさんある。子どものイベントをすると、当然親、祖父母がついてくるという切り口がありコラボしやすいという話があったが、1つの分野だけではなく、色々な分野が重なりを持つ形で、次期計画ではどのように重なるのかという視点を持つことがいいだろうと思った。</p> <p>市民意識調査は読んでいて、困っているときに声が出せない、困っているときに人に頼ったら申し訳ないという気持ちがあるというのが、非常に大きな課題だと思っている。</p> <p>3月20日の庁内連携会議に参加させていただいたが、事例を取り扱ったが、困っている人が困っていることを自覚はできない。本当にひっそり困っている人はひっそり暮らしており、周りから見て困っているように見えないところに課題がある。それはとても時間のかかるアプローチで、私達専門職でも本当に時間をかけてアプローチしなければいけない内容。シングルのお父さんがお子さんを育てているという事例だったが、そこには必ず保育園、学童、学校といった組織があり、その人達がお父さん困っていないかと、そういう視点持つということが大事だと講義の中でもあった。皆が少しずつ気付けるような地域を、今後様々な団体が各地域で活動していくことにより、ちょっとした気づきや見守りが増えていけるような、そのような視点で計画ができていくといいと感じた。</p>
委員長	<p>質問だが、地域の単位をどの程度取ればよいか。地域の専門家と地域で活動しているインフォーマルな団体が同じテーブルにつけれる単位は、小学校だとちょっと小さいか。</p> <p>障がいと高齢とは全然違う側面もあるが、地域によって課題の状況が違うということがあるのか。</p>
委員	<p>ある方が長久手を3つに分けられると言っていた。これは地元の方だが、福祉の家、ござらっせ付近から東小学校区までのあたりと、長久手中学校から藤が丘の辺りと、高速道路のところから南の長久手南中学校あたりのブロックに分けられるという人がいた。</p> <p>違うというかもしれないが、土地柄が文化圏というか生活圏というかで分けられるのではないかと思う。そういうところで、中学校区ではと思うところがある。</p>
委員	<p>委員が言われた長久手が3つの地域にということで、民生委員・児童委員協議会が令和4年12月から長久手で3つの単位民協になった。</p>

	<p>今言われたみたいに、長中校区と北中校区と南中校区ということで、3つの単位民協になって活動を始めたところ。</p>
委員長	<p>いずれにしても、地域福祉計画の方向性に、今日の議論を反映させるとすれば、地域、どの単位ぐらいだと専門職と地域の活動者、あるいは民生委員も含めて、交流できる領域がとりあえず中学校区というか。</p> <p>まだ大きいという議論も当然あると思うが、大きく集まって小さく分ける議論は可能だと思う。中学校単位程度で、地域福祉計画として住民の方に専門家が寄り添うような議論を立てないといけない。ワークショップの継続的な事業についても計画の中に取り入れ、出力は別の2つの出口があるということも確認した上で、議論したことが計画の柱立てに少しでも役に立つことを確認しておいたほうがいい。</p> <p>最初の活動評価や内容はもう少しエピソードを豊富にして計画の前に入れ、計画の課題に結びつけていく。アンケート結果からもいくつかの項目については、きちんと重点として取り上げ、計画の内容に反映させていく。議論していることが計画に反映されるプロセスをはっきりしたほうがいい。皆さんと確認できればと思う。</p>
<p>(4) その他 (当日資料「地域福祉計画・地域福祉活動計画と一体的に定める計画について」に基づき、事務局から説明)</p>	
事務局	<p>地域福祉計画・地域福祉活動計画と一体的に定める計画について説明。</p> <p>来年度には計画の骨子、それから素案など計画書の形作りが始まっていくが、地域福祉計画、地域福祉活動計画と一体的に定める予定の4つの計画について。</p> <p>それから団体ヒアリングについて。</p> <p>第3次地域福祉計画を形作るにあたり、地域の多様な存在が主体的に取り組めることも計画に反映していきたいと考えている。そのため、地域で活動している団体や集いの場、事業者等にヒアリングを実施する予定。主に地域でどのような役割を果たせるかという視点で調査を考えている。</p>
委員長	<p>次回は何時ごろになるか。</p>
事務局	<p>次回は6月頃を考えている。</p>
委員長	<p>6月には取り残している業務量調査等の報告と、団体ヒアリングの内容、それから先ほどの4つの計画。</p> <p>今日午前中、権利擁護支援計画、名称はちょっと異なるが議論をして、今年の3月で第2期計画ができる。それをどのように計画に反映するかという議論になろうかと思う。広域の5市1町の計画はほぼ出来上がっているので、その反映を考えていただく内容になろうかと思う。</p> <p>今日いくつか論点、計画に反映すべき内容は1度整理して、確認というほどではないが、6月まで少し時間が空くので、こういう形で今日の議論を計画に反映するというような、整理をしてお送りするようにしたいと思う。</p>

連絡事項	
	<p>(各課からの連絡事項等無し) (事務局からの説明事項)</p> <p>本会議が公開であり、議事録は市ホームページへ掲載することを説明。 次回の策定推進委員会の日程について、6月頃で予定。日程が決まり次第、改めてご連絡させていただきます。</p>